

平成28年度
第2回 対策地域内廃棄物処理業務等（減容化处理）に係るアドバイザー委員会
議事要旨

日時：平成28年10月6日（木） 13:30 ～ 17:30

場所：一般財団法人 日本環境衛生センター 東京事務所

出席委員（敬称略）

| | |
|--|--------|
| 公益社団法人 全国都市清掃会議 技術指導部長 | 荒井 喜久雄 |
| 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター センター長 | 大迫 政浩 |
| 岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授 | 川本 克也 |
| 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 循環資源基盤技術研究所 室長 | 倉持 秀敏 |
| 京都大学大学院 地球環境学堂 地球益学廊 教授 | 高岡 昌輝 |
| 国立環境研究所 資源循環・廃棄物研究センター 客員研究員 | 高田 光康 |
| 東北大学 大学院環境科学研究科 研究科長 教授 | 吉岡 敏明 |
| 京都大学 工学研究科 都市環境工学専攻 教授 | 米田 稔 |
| 環境省福島環境再生事務所 調整官（廃棄物担当） | 小野寺 秀明 |
| 環境省福島環境再生事務所 減容化施設整備課 課長 | 小島 啓之 |

議事要旨

I 本日の議事

1. 大熊町における廃棄物処理業務（減容化处理）
2. 開閉所農林業系廃棄物処理業務（減容化处理）
3. 飯館村蕨平地区対策地域内廃棄物等処理業務（減容化处理）

II 検討内容

1. 大熊町における廃棄物処理業務（減容化处理）

冒頭、三菱・鹿島共同企業体（以降、三菱・鹿島JVと記載）より、業務内容について説明があった。

（1）処理対象物の低位発熱量について

委員より、低位発熱量が低い除染廃棄物と高い家屋解体廃棄物の混合により低位発熱量の改善が可能かとの質問があった。三菱・鹿島JVより、除染廃棄物の量が多く困難であるとの回答があった。

(2) ごみの均質化の方法について

委員より、処理対象物の均質化をどのように行うかとの質問があった。三菱・鹿島 JV より、破碎した処理対象物を受入ヤード内で重機にて展開・攪拌し、ごみピットに投入後、ごみピット内でクレーンにて攪拌するとの説明があった。

(3) 放射線の遮へい効果シミュレーションについて

委員より、仮設灰保管施設の遮へい効果シミュレーションについて、厳密な条件を定めてシミュレーションを行うよう意見があった。三菱・鹿島 JV より、現在、詳細なシミュレーションを行っているとの回答があった。

(4) 作業員の被ばく管理について

委員より、作業員の被ばく管理をどのように行うかとの質問があった。三菱・鹿島 JV より、被ばく総量と作業時間により作業員の被ばく管理をするとの回答があった。

2. 開閉所農林業系廃棄物処理業務（減容化処理）

冒頭、三菱・大林・東亜共同企業体（以降、三菱・大林・東亜 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

(1) 冬期間の処理対象物の収集について

委員より、冬期間は道路凍結等が想定されるが、処理対象物の収集についてどのような対策をするかとの質問があった。三菱・大林・東亜 JV より、冬期間は交通事故リスク低減のために収集車台数を減らす等により対応するとの回答があった。

(2) ごみの均質化の方法について

委員より、処理対象物の均質化をどのように行うかとの質問があった。三菱・大林・東亜 JV より、処理対象物の性状をもとにした施設への搬入順の調整と、受入ヤード内での重機による展開・攪拌を行うとの説明があった。

(3) 運営情報の開示について

委員より、運営情報の開示をどのように行うかとの質問があった。三菱・大林・東亜 JV より、ホームページと周辺住民への広報紙の作成・配布による開示を行うとの回答があった。

(4) 焼却炉の形式について

委員より、焼却炉形式の選定の理由は何かとの質問があった。三菱・大林・東亜 JV より、先行する他の仮設焼却施設において実績のある形式を選定したとの回答があった。

3. 飯舘村蕨平地区対策地域内廃棄物等処理業務（減容化处理）

冒頭、IHI 環境・日揮・熊谷組 廃棄物等処理業務共同企業体（以降、IHI・日揮・熊谷組 JV と記載）より、業務内容について説明があった。

（1）焼却炉の温度管理について

委員より、焼却炉内燃焼温度の管理をどのように行うかとの質問があった。IHI・日揮・熊谷組 JV より、燃焼温度が 850℃を下回らないよう助燃バーナ等を用いて管理するとの回答があった。

（2）バグフィルタへの消石灰・活性炭の吹き込みについて

委員より、バグフィルタにおける消石灰・活性炭の吹き込み量の設定についてどのように制御しているかとの質問があった。IHI・日揮・熊谷組 JV より、活性炭は定量を吹き込み、消石灰は排ガスの塩化水素濃度から吹き込み量を制御しているとの回答があった。

（3）焼却炉形式による使い分けについて

委員より、いろいろな処理対象物の性状に対し、2 形式ある焼却炉の特性に合わせた処理を行うよう意見があった。

（4）破碎機の刃の整備頻度について

委員より、破碎機の刃の整備頻度はどのように考えているか質問があった。IHI・日揮・熊谷組 JV より、二軸破碎機についてはメーカー推奨期間よりも短い期間で整備を行い、安定処理に努めていくとの回答があった。

以上